

季刊

青葉の森から

第47号

2018年
1月10日発行



『冬の森へようこそ!』

俳句の世界で冬の季語に「山眠る」があります。雪が積もってシーンと静まり返り、眠っているかのように動きがない様子を感じさせます。

でも冬の森はじっとはしていません。変わらないように思えても刻一刻と変化しています。雪や氷の造形、動物の足跡など、冬ならではの自然現象は、時間によって変化します。遠くの眺めだけでなく、近くも見渡し、そのとき限りの自然のショーをお見逃しなく。



雪が無ければ殺風景で何もないように思う冬枯れの森ですが、注意深く探すといろいろなものが隠れています。葉を落とした枝には顔のように見えるかわいい葉の痕や芽。地面に星のような形でへばりついている草。卵・幼虫・サナギ・成虫とそれぞれの姿で冬を越している虫たち。みんな春を待ちわびています。隠れているものをみつけるのは宝探しをしている気分です。

寒さが厳しい季節ですが、部屋の中や街で過ごすだけでなく、森にあそびに来てみてはいかがでしょうか？素敵な宝ものがみつかるといいですね。(り)



新しい動物との出会いがありました

毎日森にいる私たちレンジャーでさえ野生動物に出会う機会はほとんどない。でも、動物たちが残した暮らしの痕跡（食事の跡、足跡、フンなど）からどんな動物が生息しているのか推測することができるので、青葉の森には市街地に隣接しているにも関わらず多くの種類の哺乳類が棲んでいることはわかってきた。

しかし、昨年秋まったく予想もしなかった動物の生息が確認された。散策ガイド中にヒノキ林内を通る遊歩道でモグラが死んでいるのを見つけた。最初、いつも見るモグラにしては小さいのでヒミズ（モグラ科、日不見、学名：*Urotrichus talpoides*）かと思った。しかし手はしっかり土を掘れる形をしている。ガイドの途中だったので深く調べることをせず「小さなモグラだなあ」と思った程度で通り過ぎてしまった。

後日、哺乳類に詳しい橋本勝氏（宮城教育大学教員キャリア研究機構 環境教育・情報システム研究領域）に確認していただいたところ、それはミズラモグラ（モグラ科、角髪土竜、学名：*Euroscaptor mizura*）と判定された。青葉の森では初確認であり、宮城県内でも数例の記録があるだけで、全国的にも希少種扱いされている。

種名のミズラは、角髪（みずら；日本古来の髪型）と同じような形・大きさであることからきている。体長 80～106mm、体重 26～36g ほどの小型のモグラで、畑地や河川敷に生息するアズマモグラ（モグラ科、東土竜、学名：*Mogera imaizumii* 体長 120～150mm、体重 48～127g）より一回り小さい。このため、平野部などの餌の多い豊かな土地をアズマモ

グラに占拠され、体の小さなミズラモグラは標高の高い山岳地帯に追いやられていると考えられていた。日本中の研究者や環境調査に関わる人たちがそう信じて疑わなかった中で、青葉の森のような低山にも生息していたことは、これまでの常識を破る貴重な発見である。

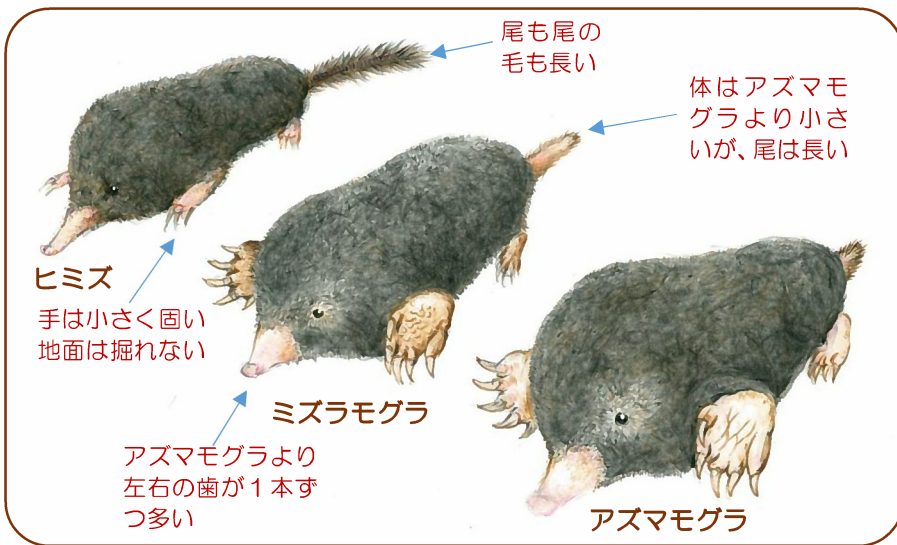
このモグラが青葉の森に普通に生息しているのか、少数が絶滅の危機に瀕しながら細々と生息しているのか今のところは不明だが、今回発見された死体が最後の1匹とは思えない。それよりも、発見された

場所がヒノキ林の中だったことは何かを示唆しているのかも知れない。なぜかというミズラモグラは一部の研究者の間では林の中を好むモグラではないかと考えられており、畑地や河川

敷などの開けた環境を好むアズマモグラと、林の内と外で棲み分けている可能性が示唆されているからだ。今回ミズラモグラが確認されたのも森の中であり、この図式が当てはまる。

ただ、出会うことの少ない野生動物の中で地中に生息するモグラ類との出会いはさらに難しく、研究もなかなか進まないだろう。でも、このモグラが低地の森にも普通に生息するということになれば、今まで気付かなかっただけで青葉の森には相当数のミズラモグラがアズマモグラと棲み分けながら生息していたことになる。大都市仙台のすぐそばなのに、まだ知られていない動物が棲んでいたなんて、自然には本当にワクワクさせられると同時に青葉山の自然の奥深さ大切さを改めて感じる。

利用される皆さんも既存概念にとらわれず森を楽しみ、自分なりの新たな発見をしていただけたらと思う。（千）



バードケーキを作って、窓辺で野鳥観察はじめませんか？

すべてが雪に覆われてしまう冬は野鳥たちにとって食べ物を探すのが難しい季節です。野鳥の好物を庭やベランダに用意しておく、食べ物を見つけて遊びに来てくれるようになります。

そこで便利なのが**バードケーキ**と呼ばれる野鳥の餌。家庭に常備してある食材で簡単に作ることができ、様々な種類の野鳥が好んで食べ、しかも餌台を作らなくても窓から見やすい位置に餌を設置することができる優れたもの！雑穀などの撒き餌と違い食べかすがほとんど出ないので、管理にあまり手間がかからない点もポイントです。



バードケーキの作り方



《材料》約直径3cmのお団子

- ・油脂※・・・30g（今回はラード）
- ・砂糖・・・・・・20g
- ・小麦粉・・・・50g

分量は目安。作りやすい配合を見つけて下さい。
※牛脂やバターなど常温で固形の動物性油脂が扱いやすいです。無塩のものを使ってください。
サラダ油でも構いません。

- ①ビニール袋にラードを入れ室温に置いて柔らかくする。
- ②砂糖を追加して袋の上からよくもんで馴染ませる。
- ③小麦粉を追加して均一になるまで良くこねる。
- ④団子型に丸めたら完成！
（生地がバタバタしてまとめにくいときは冷やすと固まります。）
あとは野鳥が来そうな場所に置いて、一週間くらい気長に待ちます。

バードケーキを好きな場所に設置しよう！松ぼっくりのバードフィーダー

《材料》

- ・バードケーキ（直径3cmのお団子）
- ・松ぼっくり
- ・紐（吊り下げて使用する場合）、又は針金（固定して使用する場合）



①設置する場所に合わせて紐や針金を必要な長さにカットし、松ぼっくりに結びつける ※この作業は必ず最初に行ってください。

- ・鱗片の隙間に紐を挟み込むようにすると落ちにくい。
- ・松ぼっくりの上下はお好みで！

（針金や滑りやすい素材の紐を使用する場合は、底の方が紐の固定がしやすい）

②バードケーキを5mm程度の厚さ、はがきサイズくらいにのばす

- ・ラップに挿むか、ビニール袋に入れて作業すると良い。

③ ②のバードケーキの上に、①の松ぼっくりのをせる

④おにぎりを作るように握り、松ぼっくりの鱗片の隙間に

バードケーキを詰め込むようにしながら丸める

※松ぼっくりにバードケーキをつけ直せば1シーズン使えます。



バードケーキを食べに来てほしい野鳥の好物をデコレーションしてみてください！

例えば・・・シジュウカラに来てほしいなと思ったらヒマワリの種を追加する。メジロがバードケーキを食べに来てみたいだからもっとじっくり見てみたいな、という時にはバードケーキとは別に果物や果汁を用意するなど。アレンジして楽しんでみてください。

住宅街でよく見かける 野鳥の好きな食べ物（一例）

スズメ	パンくず、ごはん粒、ヒエ・アワ、バードケーキ
シジュウカラ	ヒマワリの種、ピーナッツ、クルミ、牛脂、バードケーキ
ヒヨドリ	パンくず、くだもの、木の実（南天等）、ジュース、バードケーキ
メジロ	くだもの、ジュース、花の蜜、小さな昆虫、バードケーキ
カワラヒワ	ヒマワリの種、ヒエ・アワ、草の実、バードケーキ
ツグミ	パンくず、くだもの、バードケーキ
ジョウビタキ	ピーナッツ、クルミ、小さな昆虫

※野鳥への餌やりは自然界に鳥たちの食べ物が少ない冬（12月～3月）の季節だけにしましょう。※野鳥が病気になるないように餌場や水場は清潔に保ちます。水は毎日換えましょう。※掃除やエサの補充などの作業をしたら手洗いうがいをしっかりして衛生面に気をつけて！（K）

バードケーキを食べにくる代表的な野鳥



シジュウカラ



メジロ



ヒヨドリ



トゲのある話



園内のトゲのある木といえばタラノキ、ハリギリ、サンショウなどがあります。そのほかにもうひとつ最強のトゲのある木があります。サイカチです。(写真1) 園内にあるサイカチのトゲです。手前に真っすぐ突き出しているだけでなく、左右・斜めいろんな方向にトゲを突き出しています。



写真1：サイカチのトゲ。トゲの先がいろんな方向に向かって鋭く生えています

ハリギリ(写真2)のトゲは普通に見られる一本突き出たトゲですが、比べてみると複雑さがわかります。細く、形も不揃いに生えています。そもそも樹木のトゲは何のためでしょうか?



写真2：ハリギリのトゲ

ひとつには「自己防衛」のためという説があります。その形をみても、害をおよぼす動物か鳥か昆虫などが近寄れないように防衛をしているのは間違いないと思われまます。もちろん人間も近寄れません。体や目に刺さる危険があります。幹や枝が変化してできたトゲ、最強の凶器と言えます。

サイカチの種子

サイカチのサヤ(写真3)は大きく15~30cmあります。軽くねじれていて形は枝豆のビッグサイズ。秋にはだんだん黒ずんで地面に落ちてきます。その中の種子(写真4)はサヤの大きさに比べるととても小さく5~8mm程で硬いのが特徴です。種子に比べ無駄に大きなサヤはサポニンを多く含んでおり、古くは石鹸がわりに使われていました。実際に石鹸水を作ってみると、シャボン玉ができるほど泡立ちはよくありませんでしたが生活に役立っていたようです。(あ)

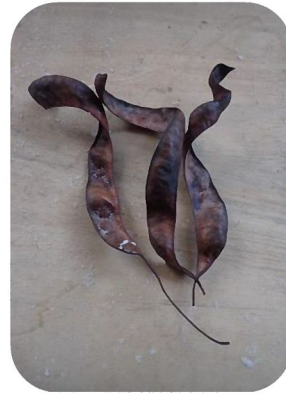


写真3：サイカチのサヤ。大きくねじれています



写真4：タネはサヤに比べても小さい。振ると音がマラカスの代用になります

イベントのお知らせ

イベント名	日時	内容	対象・定員	申込み
竹クラフト「生活で使う竹かご作りに挑戦」	1月27日(土) 9:30~16:00	園内の竹林整備で出た竹の有効利用です。六つ目編みの「竹かご」作りに挑戦します。	高校生以上20名(先着)	1月6日(土) 午前9時から電話
森でアート「冬の森のたからさがし」	2月24日(土) 10:00~14:00	冬ならではの芸術的な自然現象や木の実などの「森の宝物」を探しながら散策します。	小学生の子供と保護者15名(先着)	2月6日(火) 午前9時から電話
大人の森あるき	3月4日(日) 9:00~12:00	春のおとすれを感じながら冬の寒さを乗り越えてきた森をのんびり散策します。	高校生以上15名(先着)	2月8日(木) 午前9時から電話

※イベントの詳細や申込み日など変更になる場合がございます。毎月発行の「市政だより」お出かけ情報を確認の上申し込みしてください。

【三居沢入口・こもれび広場入口 屋外公衆トイレは12月から冬期凍結防止のため止水しています。】

情報誌 季刊「青葉の森から」第47号 2018年1月10日発行
発行：(公財)仙台市公園緑地協会/編集：青葉の森管理センター

青葉の森管理センター

開館時間/午前9時~午後4時30分 休館日/月曜・年末年始
〒980-0845 青葉区荒巻字青葉260
TEL:022-263-2101 FAX:022-263-2102
地下鉄東西線「青葉山駅」から徒歩15分
<http://www.sendai-park.or.jp/web/info/aobanomori/index.html>

